高井戸東小学校

１１月号
No.６４３

URL　https://suginami.schoolweb.ne.jp/13020006　/　TEL 03-3304-5711

人と人が触れ合う中での学び

校長　馬場　章弘

この原稿を書いている時期はまだ運動会より前で、朝早くから子供たちの練習の声が校庭に響いています。近隣の方々や保護者の皆様には重ねてお詫びと、ご理解ご協力に感謝申し上げます。

コロナによる臨時休校があったのが令和２年、今年で６年になります。そのときに生まれた子供たちが今年度の１年生になります。しばらくは家族以外の人との接触を避け、外にも出ず家でじっとしていたことと思います。それ以前の子供たちと比較すると、いろいろな面で大人も子供も大きく影響を受けてきました。そこで改めて考えたのは、人と人が触れ合うことで学ぶことの大切さです。



その一つが運動会などの学校行事です。臨時休校あけは、学年ごとに校庭に出て体育学習の発表をしました。短距離走と学年の競技か演技、それを保護者が近くで参観して自分のお子さんの発表が終わったら帰るという形式でした。近隣の大規模校では、その形式が続けられているところもあります。子供たちの数が多く、参観の保護者の数を含めると人数が多すぎて校庭に入りきらないからです。高井戸東小学校はそこまでの人数ではないので、以前の運動会に近づけた形で実施することとし、数年が経っています。それには、大きな理由があります。

まず子供たちですが、全学年が校庭に出て同じ目線でほかの学年の競技や演技を応援することは、とても大切です。「○年かわいい！」「○年かっこいい！」「すごい！」という思いを持つことによって、身近な目標となるからです。下の学年の子供たちは自分より上の学年の子供たちを見て、自然に次の自分の姿を学んでいきます。逆に、上の学年の子供たちは下の子供たちから見られることによって、より素敵な自分でありたいと思い努力します。

そして保護者や子供たちを日頃見守っている方々にとっても学びがあります。下の学年の保護者にとっては、自分のお子さんばかりでなく上の学年の子供たちを見て、「次はこんなことができるようになるんだ」「こんなに成長するんだ」という見通しをもつことができます。また、日頃見守っている方たちにとってもいつも見ている姿とは別の、一生懸命走る姿や生き生きと競技や演技に取り組む姿を見て、その子の新たな姿を発見し、より応援したくなるからです。

来月は学習発表会もあります。様々な課題のある中で今年度から実施方法が大幅に変わります。いろいろと変化しながらも、行事ばかりでなく日頃の学習も含め、人と人が触れ合う中で子供たちの心を育てるものにしたいと準備を進めています。お時間の許す限り、できるだけたくさんの学年の発表を見ていただければと思います。

本校の特別支援教育の取組を中心に

特別支援コーディネーター

本校の特別支援教育の取り組み

本校では、これまで特別支援教育充実のため、通級指導教室（たかひがし教室）の活用や学習支援が必要な児童への個別の取り出し指導、校内特別支援委員会を中心とした、子供たちへの支援策に関する協議等に取り組んできています。

また、必要なお子さんには、長期的な視点できめ細やかな教育的支援を行うために、担任と保護者と相談しながら、「個別の教育支援教育」と「個別指導計画」を作成しています。「個別の指導計画」は、より具体的に指導目標や指導内容・方法を設定して作成され、通級や取り出しの学習にも生かされています。

合理的配慮

「合理的配慮」とは、「障害者の権利に関する条約」や「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に記載されています。端的に言うと、一人一人の子供たちにとって、学習しやすい環境にしていくことです。例えば、黒板の字が見やすい場所に座席にする、集中力の妨げにならないように、黒板周辺に掲示物を貼らないことなどが「合理的配慮」の一例です。学校生活に支障をきたすことがないように、全教職員で連携を図り、子供たちが安心して学校生活が送れるように学習環境を整備することを意識しています。